

## 釣り大会に参加して

厚生委員会

~~~~~  
白い手が私の腕に絡み付く。みっちり…。何本もの腕が…。その腕はだんだんと力を込めて、私の腕を締め付ける…。

こう書くと嫌らしいが、釣り大会のこの日私が初めて、タコを釣り上げた時の情景なのだ。吸盤の強い力が、私の腕に吸い付き、力強くからみつく、大きなタコだった。たもですくってくれた船頭さんも、「おっ、大きいタコだ。買ったら1万はするよ。」と言ってくれた。

このタコに含まれた何グラムかの水分が、この日の私の優勝を決定したことは言うまでもない。

毎年楽しみにしている建設協会の釣り大会が近づくにつれて、仕事の忙しさの中でも、この日の天気予報と台風の行方が気になる日々が続いた。しかし、心配もなんのその、その日は、少し波は高いものの上々の釣り日和だった。

仕事の早起きとは違って、目覚ましを掛けた四時前に、ちゃんと目覚めてしまう自分が不思議だった。釣りバカは私だけではなく、うちの会社では、わざわざ福島出張所からこの日を楽しみに出掛けて来る人までいるのだ。

この日の収穫は、30センチ大のアイナメを始めに、先ほどのタコ一匹、中小のアイナメ数匹。夕食の食卓には、タコとアイナメのさしみがどんと並び、その上優勝のすばらしい賞品も加わり、妻の機嫌も上々で、潮焼けした顔に祝杯の数も進み真っ赤な顔のうれしい一日だった。近くに住む両親にも、すそわけし一日早い父の日のプレゼントに代えさせてもらった。

中年と呼ばれるようになって自分から進んで運動などしなくなって久しい。そんな私にとって釣りは、唯一と言っていい趣味である。しかし、仕事に追われなかなか海釣りに向かう事は少ない。そんな私たちに、一時のリフレッシュタイムを与えてくれた建設協会に感謝しつつ、来年の大会の盛会を祈りたい。

